

Fun time

薬剤師 山本 三奈代



正しい飲み方で最大限の効果を!

薬を飲んでいて、苦くて飲みにくい、大きくて飲みにくい、と思われたことはありませんか?
 お薬は正しく飲むことで効果を最大限に発揮します。
 お薬はコップ1杯のお水またはぬるま湯で飲むことが必要なことをご存じですか?
 お薬は溶けて吸収されることで効果が発揮します。薬をコップ1杯の水で飲むことには「薬をとかす」という意味があります。お薬は飲みこんで身体に入ればよいというわけではありません。
 薬によっては水なしで飲むと溶けずにそのまま排泄されたり、薬がのど(食道)にひっかかったまま溶けだし、炎症を起こして潰瘍になることもあります。

適切な量の水で薬を飲むことが大事です。飲み込みにくい方、水分制限が必要な方では、口の中で溶かして飲む口腔内崩壊錠(OD錠)、小児には薬を包み込んで飲む服薬補助ゼリーを使うなどの方法もあります。



コップ1杯(約200ml)の水を数回に分けて飲むのが理想です。

風邪や花粉症などでお薬を飲む機会も増える季節かと思えます。正しい飲み方で最大限の効果を得ましょう!

NEWS

① シャトルバス「尾上便」開始

12月19日より、山陽電車「尾上の松」駅と当院を結ぶ直通のシャトルバスが運行を開始しました。

・定員：9名 ※車イスでのご乗車はできません。

ご利用される方へ

- 定員を超える場合はご乗車できません。
- 指定場所以外からの乗車や、途中下車はできません。
- 時刻表は平成28年12月現在のものです。

【運行日・運行時間等】

月曜日から金曜日(祝日及び年末年始[12/29~1/3]を除く)
 午前8時から午後5時の間に、30分間隔で運行
 (1時間あたり2往復・1日トータルで18往復)

【時刻表】

- 尾上の松駅 北側ロータリー発：毎時00分、30分
 - 加古川中央市民病院 正面玄関発：毎時15分、45分
- 道路交通事情により変更になる場合があります。



② 第2回 健康教室のご案内

「腎臓病について」

日時：2月18日(土)14:00~15:30 場所：当院 光(きらり)ホール 定員：150名 入場無料・事前予約不要
 お気軽にお越しください。皆さまのご参加をお待ちしております。

③ 加古川市総合防災訓練

10月23日(日)に、加古川市の日岡公園付近の会場で開催され、負傷者の救護、処置に医師(研修医も含む)・看護師、救急救命士など多数のスタッフが参加しました。



④ 加古川収穫祭With Dr.Tierney

11月17日(土)に、診断学の権威であるカリフォルニア大学のティアニー先生をお招きし、医療職を対象とした参加型カンファレンスを行いました。



⑤ クリスマスフェスタ2016

2016年12月10日(土)に「第1回加古川中央市民病院クリスマスフェスタ2016」が開催されました。約1,100人の多くの方々にご来場頂きました。ありがとうございました。医療職による健康相談や病院見学ツアー、コンサートなどで楽しんで頂きました。



① 世界糖尿病デー(11月14日)

当院においてもイベントブースを設けて、来院された方に糖尿病についてご紹介させていただきました。

② 医療安全推進週間(11月22日~28日)

「患者の安全を守るための共同行動」の取り組みについて理解や認識を深める為、各部署からのポスターを掲示しました。

③ 第1回 健康教室(11月26日)

近隣の皆様を対象とした健康教室「腎臓病について」が開催されました。60名を超える、多くの方々にご参加頂きました。

受付時間
 診療受付時間：(月~金)8:00~11:00
 診療時間：(月~金)8:45~17:00
 休診日：土曜日・日曜日・祝祭日
 年末年始12月29日~1月3日



加古川中央市民病院から地域の皆さまへ

つづい

2017

2



2017年 加古川中央市民病院 より一層頼られる病院へ

特集◎「がん」~正しい知識、適切な治療~

ごあいさつ

加古川市民病院機構 理事 兼
 加古川中央市民病院 副院長 兼 診療部 部長 兼 産婦人科 主任科部長
 ほう まさ き
房 正規



開院後、初めて年が改まりました。遅ればせながら、あけましておめでとうございます。
 昨年7月の新統合病院の開院からあっという間に半年が経ちました。振り返りますと、当院を受診される市民の皆様が、より円滑に診療をお受けいただけますように、駐車場の混雑の緩和、駐車場や個室料金の改定、送迎バスの増設をはじめ、常に改善する日々でした。これからも新たにできることはすぐ実行するよう、大西理事長兼院長を先頭に取り組みでまいります。

さて今号では、高齢化、生活環境の変化など様々な要因により罹患される方が増加しております、がんの治療にスポットを当てました。様々な診療科、部門が連携いたします、がん集学的治療センターについてご紹介いたします。医学、医療の進歩に伴い、罹患された方が「付き合っていく」期間が長くなっていますが、苦痛が無い充実した生活を送るために欠かせない、緩和療法部門やがん相談支援室についてもご紹介いたします。

これからの1年は、昨年産声をあげた加古川中央市民病院が、しっかりと立ち、歩く年となります。地域の病院、診療所からご紹介いただいた、高度急性期、急性期の診療を必要とする方々に、最新の医療を安全にご提供することで、より一層頼られる病院でありますよう職員一同努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院
 〒675-8611 兵庫県加古川市加古川町本町439番地
 TEL: 079-451-5500(代表)
 http://www.kakohp.jp/



「がん」～正しい知識、適切な治療～

特集 「がん」～正しい知識、適切な治療

加古川市民病院機構 理事 兼
加古川中央市民病院 副院長 兼 がん集学的治療センター長 兼 外科・消化器外科 主任科部長

かねだ くにひこ
金田 邦彦



「がん」とはこんな病気です

1980年代以降、日本人の死亡原因の第1位は悪性新生物(いわゆる「がん」)ですが、この傾向はしばらく続くと考えられています。がんは遺伝子が傷つくことによって発生します。遺伝子が障害を受ける原因としては、もともと傷ついた遺伝子を祖先から引き継いだり、タバコや放射線などの発がん因子にさらされ遺伝子が傷つけられることがあげられます。近年、がんが増加している一番大きな原因は、寿命が延びたことで正常細胞が細胞分裂を繰り返す回数が増え、その過程でたまたま遺伝子に異常をきたすことで頻度が増えてしまうことにあると考えられています。



イメージ図

「がん」の治療

がんの治療は大きく外科的治療(手術療法)、放射線治療、薬物(化学)療法の3つに分けることができます。転移がなく治療すべきターゲットが限局している場合には手術や放射線治療が行われます。全身に広がっている場合や血液のがんは薬物療法が主体になります。それぞれの治療法単独では効果に限界があるため、最近では2つあるいは3つの治療方法を組み合わせて治療効果を高める方法が選択されるようになってきました。これは集学的治療とよばれ、がん治療の主流となりつつあります。また、がんに対する直接の治療の他に、がんになった患者さんの精神的あるいは肉体的な苦痛を取り除くために緩和医療が積極的に行われるようになり、生存期間の延長につながると報告されています。

当院のがん集学的治療センターも外科的治療、放射線治療、薬物療法、緩和医療を4つの柱としてがんの治療にあたっています。

+++++ がんの3大治療法 +++++ 「がん」という雑草をとってしまおう

<p>手で刈り取る</p> <p>①外科的治療(手術療法)</p>	<p>火(放射線)で焼く</p> <p>②放射線治療</p>	<p>薬で枯らしてしまおう</p> <p>③薬物(化学)療法</p>
組み合わせ(集学的治療)		

++ 緩和医療 ++

様々な場面で患者さんの苦痛を取り除くサポートをしています。

- ・難治がんの診断など悪い知らせ
- ・がん治療中に生じるつらい症状
- ・経済的負担、家族の問題など
- ・がんの進行、終末期のケア

(引用) 日本緩和医療学会 PEACE PROJECT 資料

がん集学的治療センターの4つの治療部門

外科部門



副院長 兼 がん集学的治療センター長 兼
外科・消化器外科 主任科部長
かねだ くにひこ
金田 邦彦

癌に対する外科的治療(手術療法)は、消化器癌、肺癌、泌尿器癌、乳癌、婦人科癌を対象として広く行われております。外科治療の最近の流れは、低侵襲手術と個別化治療です。内視鏡手術に代表される低侵襲手術は、傷が小さいため術後の回復も早く入院期間の短縮につながります。個別化治療とは個々の病態に応じた、過不足のない治療を意味します。早期癌に対して臓器温存をはかる一方で、高度進行癌には血管を含めた周囲臓器を広範囲切除することで根治性を高めることができます。このような外科的手術に加え、より癌治療の効果を期待するために化学療法や放射線療法を組み合わせる集学的な治療を行います。



実績 がん患者 手術数
2016年7月～11月 **264件**

放射線部門



院長補佐 兼 がん集学的治療センター放射線療法部門長 兼
放射線科 主任科部長
はせ まさひろ
土師 守

最新型放射線治療装置(TrueBeamTM)が導入され、8月から稼働しています。スタッフは神戸大学からの非常勤医師3名、診療放射線技師4名、看護師1名、メディカルアシスタント1名、受付1名の体制です。全国でもまだ数の少ない、がん放射線療法看護認定看護師や医学物理士が在籍しており、認定看護師による専門的な看護ケアの提供や、医学物理士による安全かつ高品質な放射線治療の提供が可能となっています。



実績 放射線治療 患者数
2016年7月～11月 **1309人**

がん集学的治療センター

化学療法部門



腫瘍・血液内科 主任科部長 兼
がん集学的治療センター化学療法部門長
おかむら つとむ
岡村 篤夫

近年、外来診療が主体である抗がん薬治療は、新病院では2階23ブロックの通院治療室で行われています。計19床の治療ベッドを有しており、原則室外で治療をお待たせすることはありません。また、最大効果が得られるよう治療スケジュールをしっかり守るため、土日を除く祭日もオープンしています。通院治療室で行われる全ての治療に対しては、患者さんの安心に少しでも繋がるよう、化学療法委員会のメンバーによる治療の追跡や主治医への提案も行われており、抗がん薬治療の最適化と安全性の確保に努めています。



実績 外来化学療法 件数
2016年7月～11月 **1729件**
(ホルモン療法・支持療法含む)

緩和療法部門



呼吸器内科 科部長 兼
がん集学的治療センター緩和療法部門長
たけな かおり
竹中 かおり

緩和ケアは、がんと診断された時から生じる体と心の苦痛を和らげるためのケアであり、がんの治療中も時期を問わず必要とされます。入院患者さんは緩和ケアチームが、外来通院中の患者さんは緩和ケア外来でケアを提供させて頂いています。また、がん以外に難治性の心不全など、生命を脅かす疾患に直面している患者さん全てに対応されるものとして、近年注目を浴びています。当院の緩和ケアチームはこれらの非がん疾患の緩和ケアにも取り組んでいます。



実績 緩和ケアチーム 対応件数
2016年7月～11月 **34件**
(非がん患者 4名)

乳腺外科(乳がん)の診療が充実しました

従来より週1回の外来診療を行っていましたが、1月から専門医(非常勤)が新たに1名赴任し、外来診療枠が増えました。また、手術も行っています。

従来 水曜日<午前・午後> → 1月～3月 水曜日<午前・午後>、木曜日<午後>
4月～ 水曜日<午前・午後>、火曜日<午前・午後>

<外来診療日>

	月	火	水	木	金
午前	—	○(4月～)	○	—	—
午後	—	○(4月～)	○	○(1～3月)	—

受診をご希望の方は、まずはかかりつけ医にご相談ください。

がん患者さんと周りの方々の安心のために どなたでも、どんなことでもご相談ください

がん相談支援室

がん看護専門看護師 和田 尚子



がんと診断された場合、多くの患者さんやご家族の心に大きな変化が起こります。がん相談支援室では専任の看護師や社会福祉士が、不安や悩みについてお話を伺いながら一緒に状況を整理し、その人らしい病気の向き合い方や生活を考えるサポートをしています。

秘密厳守でご相談に応じます。どんなことでもお気軽にご相談ください。

対象: がん患者さんやご家族、周囲の方
(当院かかりつけでない方もご利用頂けます)
相談料: 無料
受付時間: 平日9時～17時
直接お越し頂く場合: 1階2番中央受付にお声かけ下さい。がん相談支援室の利用状況により、後日にご予約頂く場合があります。ご了承ください。
お電話の場合: 079-451-5500(代表)
「がん相談を受けたい」とお伝えください

相談室前にはご自由にお持ち帰り頂けるがん情報冊子も準備しております。お気軽にお越しください

